

**一般社団法人 日本環境教育学会
第 28 回年次大会(in 岩手)**

「災害からの復興と環境教育・ESD」

大会案内・プログラム

2017年9月1日(金)～9月4日(月)

主催：一般社団法人 日本環境教育学会
会場：岩手県立大学・岩手大学

第28回年次大会 日程

		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
9月1日 (金)								定時 社員総会	若手会員の集い	論文の書き方 セミナー			
9月2日 (土)	受付	口頭発表		昼食	口頭発表		大会企画 公開シンポジウム			会員 懇談会	懇親会		
		ポスター発表		ランチ会 12-13									
9月3日 (日)	受付	環境教育メッセ											
		口頭発表		昼食	口頭発表		自主課題研究		自主課題研究				
		ポスター発表		特集号「アジアの環境教育」 ミーティング		昼食	「アジアの環 境教育」		常設・ 特設研究会				
		環境教育メッセ											

注) 9/2 (土)「英語報告会」は、午前10時～11時50分に時間帯を変更しました。

<開催概要>

- 期間 2017年9月1日(金)～9月3日(日)
*エクスカージョンは9月4日(月)
- 会場 9月1日(金) 岩手県立大学アイーナキャンパス
9月2日(土)～3日(日) 岩手大学学生センターA棟
- 主催 一般社団法人日本環境教育学会(第28回大会実行委員会)
- 後援 文部科学省・環境省・経済産業省・国土交通省・農林水産省・岩手大学・岩手県立大学・
岩手県・岩手県教育委員会・盛岡市・盛岡市教育委員会
- 一般社団法人 日本環境教育学会第28回年次大会 実行委員会事務局
〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-8
岩手大学人文社会科学部(中島研究室) 気付
電話 019-621-6739 FAX 019-621-6739 E-mail <iwate2017@jsfee.jp>
- 一般社団法人 日本環境教育学会事務局(平日10時～17時)
〒206-0033 東京都多摩市落合2-6-1 株式会社インフォテック内
電話 042-311-3355 FAX 042-311-3356 E-mail<office@jsfee.jp>

一般社団法人日本環境教育学会 Web サイト
<<http://www.jsfee.jp/>>

一般社団法人日本環境教育学会第28回年次大会 Web サイト
<<http://www.jsfee.jp/members/meeting/300>>

9月1日（金）会場 <岩手県立大学アイーナキャンパス>

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号 岩手県民情報交流センター（アイーナ）7階



【アイーナへのアクセス】

JR 盛岡駅西口から徒歩4分。

東北自動車道盛岡 IC から

車で8分。

* 盛岡駅の東西自由通路を抜けると、右手にアイーナ（ガラス張りの建物）が見えます。

* アイーナ内、中央のエレベータで7階まで上がると、左手に岩手県立大学アイーナキャンパスがあります。

9月2日（土）～3日（日）会場 <岩手大学 学生センターA棟>

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-8



【岩手大学へのアクセス】

JR 盛岡駅前からバス

（上田線・一高前、高松の池口

経由）で岩手大学前下車。

盛岡駅前から徒歩30分。

* 大学から盛岡駅までのバスは、上田2丁目のバス停からの乗車になりますのでご注意ください。



理工学部

コンビニ

学生センターA 棟
受付・研究発表等

教育学部

公開シンポジウム
会員懇談会

学生食堂
懇親会

人文社会科学部

図書館

正門

農学部

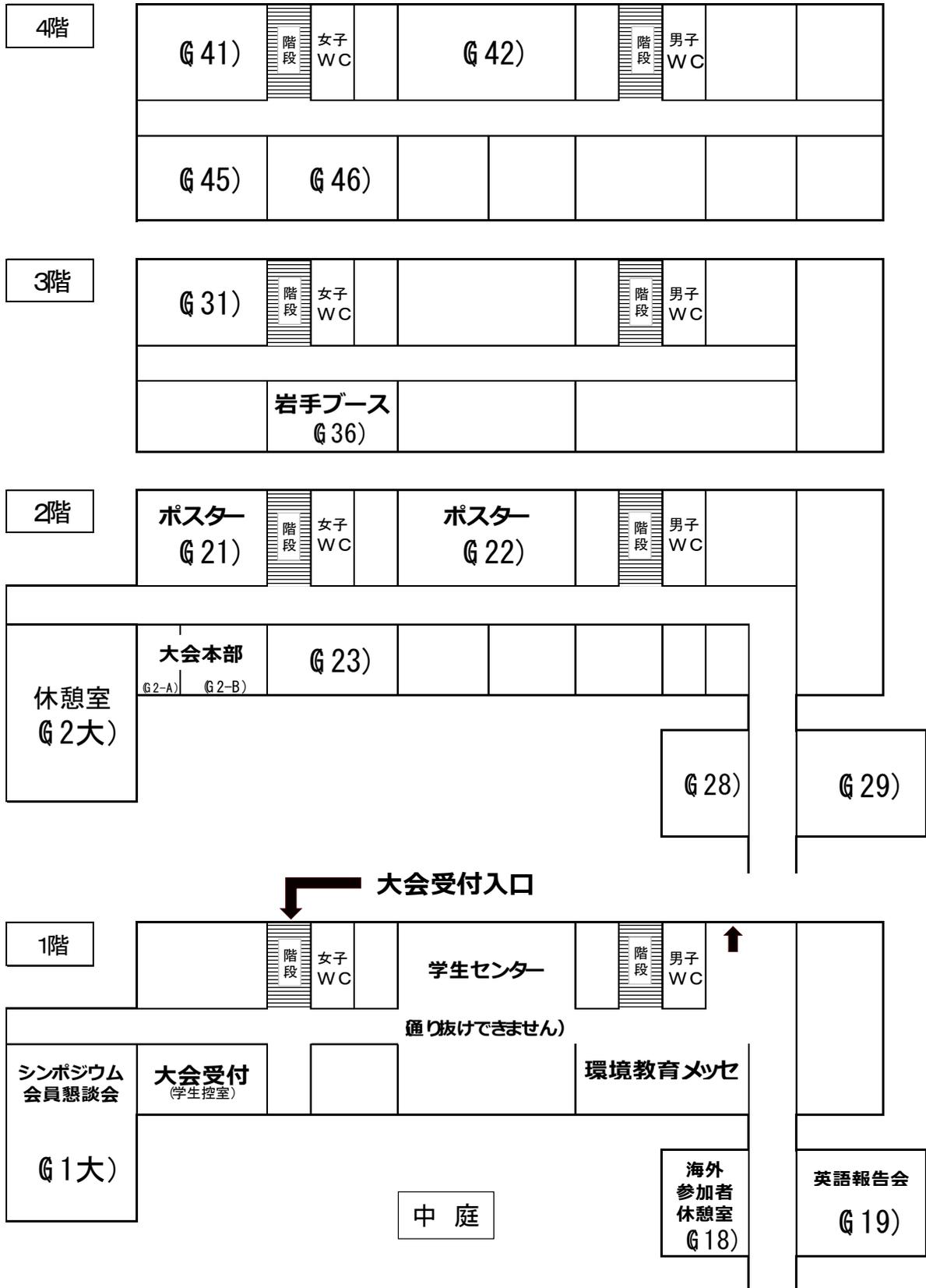
コンビニ

*岩手大学は構内全面禁煙です(喫煙所はありません)。
*車両出入口は正門のみですが、自家用車でのご来場はご遠慮ください。

岩手大学構内案内図

岩手大学 学生センターA棟 案内図

学生センターA棟



<会場のご案内（教室）>

校舎	階	教室	9/1（金）	9/2（土）		9/3（日）			
			PM	AM	PM	AM	13～14時	14～16時	16～18時
岩手県立 大学 アイーナ	7	学習室1	若手会員の集い						
			論文の書き方 セミナー						
岩手 大学 学生 センター A棟	4	G41		口頭	口頭	口頭		自主課題研究	
		G42		口頭	口頭	口頭	口頭	自主課題研究	
		G46		口頭	口頭	口頭		自主課題研究	
	3	G31		口頭	口頭	口頭		常設特設 研究会	自主 課題 研究
		G36		岩手ブース					
	2	G21		ポスター1					
		G22		ポスター2					
		G23		口頭	口頭	口頭	口頭	常設特設 研究会	
		G28		口頭	口頭	口頭		常設特設 研究会	
		G29		口頭	口頭	口頭	口頭	常設特設 研究会	
		G2大		休憩室					
		G2-AB		大会本部					
		G18		海外参加者休憩室					
	1	G19		英語 報告	国際交流 ランチ会	アジアの環境教育			
		G1大			シンポジウム 会員懇談会				
		学生控室		大会受付					
		ホール		環境教育メッセ					

＜参加者の皆様へ＞

1. 大会全般について

- 大会受付は、9月2日（土）～3日（日）、岩手大学学生センターA棟1階の学生控室に設置いたします。参加者は必ずここで受付をしてください。
- 会場内では、大会受付でお渡しする参加票（名札）を必ず首から提げるようにしてください。（一般入場者の方と名札によって判別いたします。）
- 大会開催期間中は、会場以外の建物および教室に出入りすることはできません。
- **岩手大学は構内全面禁煙**となっています。構内に喫煙スペースはございませんので、あらかじめご了承ください。

2. お食事について

- 9月2日（土）～3日（日）は、岩手大学の中央食堂が11時～14時まで営業しています。昼食はここでとるか、大学外のコンビニエンスストア等をご利用ください。

3. 会場について

- **自家用車でのご来場は原則としてできません。**盛岡駅前から岩手県交通のバス（上田線、松園バスターミナル行、11番のりば）で岩手大学前下車。またはタクシーをご利用ください。なお、盛岡駅から会場まで徒歩でも30分弱です。
- 会員の休憩室を 学生センターA棟2階G2大講義室に設置します。クロークはございませんので、こちらを荷物置場としてご自由にご利用ください。ただし貴重品等は各自が保管し、絶対に休憩室内に置かないようにしてください。

4. その他

- ATMは、中央食堂となりに「ゆうちょ銀行」（土曜日 9:00～17:00／日曜日取扱いなし）があります。

口頭発表について

日時：9月2日（土） 9:00～12:00、12:45～13:45／9月3日（日） 9:00～12:00、13:00～14:00

会場（教室）：学生センターA棟 2階 G23・G28・G29、3階 G31、4階 G41・G42・G46

1. 発表時間

1件 15分（発表 12分、質疑 3分）で進行いたします。なお、総合討論（10分）後の休憩（5分間）では、座長交代やコンピュータへのPowerPointデータ取り込み等、円滑な運営にご協力ください。発表中のベルの合図は次の通りです。

第1鈴：10分

第2鈴：12分（発表時間終了です。直ちに発表を終了してください）

第3鈴：15分（質疑終了です。直ちに次の発表者と交代してください）

- 発表者は、一つ前の発表になりましたら会場の前の方の席に待機しててください。
- 発表者は、はじめに表題と発表者名をご紹介ください。
- 質問者は、はじめに氏名と所属を述べてください。
- 発表者は、それぞれのセッションの総合討論が終了するまで、会場に待機しててください。
- 総合討論では、質問や討論が特定の発表者の発表内容に偏らないよう配慮しててください。

2. 発表機材について

- 各教室に設置済みのPCを使用してください。PowerPoint（Windows PC）が使用できます。
- PCの操作は発表者の責任で行ってください。なお、持ちこみPCを利用した発表はできません。
- PowerPointのデータは、USBメモリで当日ご持参ください。発表直前のデータ操作はトラブルの原因になりますので、ご自身の発表があるセッションの開始前（口頭発表開始時刻前、もしくは前のセッションの総合討論の時間中）に、必ず会場備え付けのPCのデスクトップ上にある各セッションのフォルダにコピーしておいてください。

※重要ウィルスチェックについて

USBメモリを媒介にしたウィルスの被害防止のため、会場に設置してあるPCには大変厳しいウィルスチェックソフトがインストールされています。もし持参したUSBメモリに、何らかのウィルスが入っている場合、会場のPCにファイルを移動することはできません。その場合、研究発表要旨、任意持ち込みの配布資料のみで発表いただくことになります。必ず事前に、各自で最新バージョンのウィルス対策ソフトで、持込みをするUSBメモリをチェックし、安全を確認してからご持参ください。USBメモリ内には、発表用のファイル以外のものは入れないようご注意ください。なお、PCにファイルを移動するタイミングは、セッション開始前もしくは総合討論と次のセッションの間の時間となりますので、協力して急ぎ行ってください。

※座長のみなさまへ

座長（司会者）はセッション全体を担当していただきます。複数の関連発表とその後の総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。進行に関してはくれぐれも時間厳守でお願いいたします。また、討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮しててください。

※英語報告部会について

第28回大会では、口頭発表・発表要旨・質疑応答・総合討論のすべてを英語によって進行する「英語報告部会」を設定します。海外からの参加者だけでなく、会員の皆様にも積極的に英語報告部会にご参加いただき、盛り上げていただければ幸いです。

ポスター発表について

日時：9月2日（土）9：00～13：45／9月3日（日）9：00～14：00

（コアタイム：9月2日の12：00～12：45、9月3日12：00～13：00）

場所：学生センターA棟2階 G21・G22教室

- ポスターの展示スペースは、1件につき縦：1800mm×横：860mmです。
- 発表者は、9月2日（土）9：00までに所定の位置に各自掲示し、9月3日（日）15：00までに取り外して撤収を完了して下さい。
- この日程で対応いただけない場合は、あらかじめ大会事務局までご相談ください。
- 発表者は質疑応答のため、2日か3日のどちらか1日のコアタイムには、ポスターの前で待機してください。両日ともご対応いただけると、より活発な情報交換がなされます。コアタイム以外は自由閲覧としますので、発表者がその場にいる必要はありません。
- 画びょうは、大会実行委員会で準備いたしますので、必ず指定のものをご使用ください。ご自身で用意されたテープなどは使わないようにしてください。
- 撤収時間を過ぎて掲示されているポスターは、実行委員会で処分いたします。保管はいたしませんので、ご了承ください。

自主課題研究

日時：9月3日（日）14:00～16:00、16:00～18:00

場所：学生センターA棟3・4階 G31・G41・G42・G46

14:00～16:00

- ① 石綿環境問題の被害の最小化に向けた教育の検討＜G41教室＞
 - 榊原洋子（愛知教育大学）、外山尚紀、NPO法人東京労働安全衛生センター、久永直見（愛知学泉大学）、斎藤 宏（エタニットによるアスベスト被害を考える会）、斎藤紀代美（浦和青年の家跡地利用を考える会）、永倉冬史（中皮腫・じん肺・アスベストセンター）、鈴木正昭（学校アスベストネットワーク）
- ② 日本の動物園と国際協力＜G42教室＞
 - 斎藤千映美（宮城教育大学）

16:00～18:00

- ③ 質的研究法を学ぶ4＜G31教室＞
 - 高橋宏之（千葉市動物公園）、秦範子（東京学芸大学）・田開寛太郎（東京農工大学大学院）
- ④ 高等教育におけるESDへの貢献＜G41教室＞
 - 阿部治（立命館大学）、大島順子（琉球大学）
- ⑤ 「産直」が拓く環境教育の新たな地平＜G42教室＞
 - 溝田浩二（宮城教育大学）、村山史世（麻布大学）、小関一也（常磐大学）、西城潔（宮城教育大学）、林守人（宮城教育大学）、ラザロ・エチェニケ（宮城教育大学）
- ⑥ 環境教育学を拓く(4)＜G46教室＞
 - 原子栄一郎（東京学芸大学環境教育研究センター）・安藤聡彦（埼玉大学）

※自主課題研究の会場設営および進行等の運営はすべて企画者側で行い、終了後は会場を元の状態に戻してください。前半、後半で休憩時間を取っていないため、終了時間は厳守でお願いします。

<大会参加者向けイベント>

【若手会員の集い】「若手が考える 20 年後の環境教育」プロジェクト第 3 弾

—イマジネーションアップ・ワークショップ—

9月1日（金）16：00～18：00／岩手県立大学アイーナキャンパス 学習室 1

【論文の書き方セミナー】

9月1日（金）18：00～20：00／岩手県立大学アイーナキャンパス 学習室 1

【会員懇談会】

9月2日（土）16：30～17：30／岩手大学学生センターA棟1階 G1 大講義室

【懇親会】

9月2日（土）（受付 17：30～）18：00～20：00／岩手大学中央食堂

※会員諸氏からのお酒等の差し入れを大歓迎いたします。会場まで直接ご持参ください。

【常設・特設研究会】

9月3日（日）14：00～16：00／岩手大学学生センターA棟2・3階

○学校環境教育パッケージ開発プロジェクト<G23 教室>

○地域環境教育活性化プロジェクト<G28 教室>

○原発事故後の福島を考えるプロジェクト<G29 教室>

○環境教育プログラムの評価研究（特設研究会）<G31 教室>

【特集号「アジアの環境教育」ミーティング】

9月3日（日）9：00～14：00／岩手大学学生センターA棟1階 G19 教室

本学会では、2017年6月に学会誌「環境教育」の特集号として「アジアの環境教育」（Webのみで公開）を刊行します。今大会では、この特集号から共通課題等を抽出し、今後の環境教育国際共同研究のあり方に向けて議論します。（すべてを英語によって進行します）

【国際交流ランチ会】

9月2日（土）12：00～13：00／学生センターA棟1階 G19 教室

韓国、台湾、北米、オーストラリアの各環境教育学会の最近の取り組みを紹介し、これら協定学会や他国からの参加者との交流を行います。（簡単な逐次通訳あり）（昼食は持ち寄り、お茶やお菓子は準備いたします）

【エクスカージョン】

9月4日（月）岩手県内で以下の3つのツアーを予定しています。

- ・小岩井農場エコツアー（エコツアー大賞を受賞した小岩井農場の環境教育体験）
- ・盛岡市動物公園ツアー（動物園の役割・在り方と環境教育を考える）
- ・陸前高田（立教大学・岩手大学グローバルキャンパス、大震災からの復興状況視察）

*エクスカージョンの参加申込期限は8月4日（金）ですが、定員のないツアーや定員に達していないツアーが残っている可能性があります。随時、大会 Web サイトに情報を掲載しますのでご確認ください。

<一般公開イベント> ※会員以外の方も参加できます

【大会企画・公開シンポジウム】

「災害からの復興と環境教育・ESD」

東日本大震災から6年以上が経過しました。我が国では、その後も異常気象によって各地に災害が発生し、岩手県は昨年、台風が上陸し岩泉町等では未曾有の水害に見舞われ、今年も九州地方で大雨による甚大な被害が発生し、いずれも多くの人命が失われています。

本シンポジウムでは、被災した地域が様々な困難を乗り越えながら、災害からの復旧・復興、そして地域創生に向けて歩みはじめる取り組みの中で、環境教育やESDが果たす役割は何かを、東日本大震災以降の歩みに焦点を当てながら、参加者とともに考えてみたいと思います。

日時：9月2日（土）14時～16時30分

場所：岩手大学学生センターA棟1階G1大講義室

1. 基調講演「東日本大震災、被災地の今」

広田純一氏（岩手大学農学部教授）

2. パネルディスカッション「災害からの復興と環境教育・ESD」

パネリスト：

梶原昌五 氏（岩手大学准教授）

佐々木剛 氏（東京海洋大学准教授）

伊藤 聡 氏（一般社団法人 三陸ひとつなぎ自然学校代表理事）

コメンテーター

阿部 治 氏（立教大学教授）

コーディネーター

高田 研 氏（都留文科大学教授）

【環境教育メッセ】9月2・3日（土・日）9：00～16：00

@岩手大学学生センターA棟1階エントランスホール

一般公開プログラムとして、大会期間中、メッセ会場にて「環境教育メッセ（環境教育見本市）」を開催いたします。環境教育に関する商品や資料の提示、販売のほか、各団体・企業の取り組みを紹介していただきます。

【資料配布スペース】

大会期間中、会員諸氏が持ち込まれた印刷物やチラシ等の配布を目的としたテーブルを、岩手大学学生センターA棟2階G2大教室に設置いたします。参加者への配布を目的として、環境教育関連資料等を持ち込まれた方は、こちらのテーブルをご利用ください。なお残部につきましては、9月3日の15：00までに撤収を完了してください。この時刻を過ぎて残っている資料につきましては、実行委員会にて処分いたします。なお、事前送付の受付や保管、郵送等による返却は一切行いませんので、ご了承ください。

口頭発表（英語報告会のプログラムは 23 ページをご覧ください）

9/2(土)	9:00～	9:15～	9:30～	9:45～
G 41 プログラム 開発1	岸本紗也加 「地球環境学」を活かした環境教育の実践と課題	本田裕子 兵庫県豊岡市でのコウノトリの野生復帰をめぐる環境教育の変遷	菊池章仁 里川づくりに向けた河川環境教育の検討～プログラム構築に向けた試み～	総合討論
G 42 ESD1	阿部治 自治体におけるSDならびにESDに関する施策の現状：全国調査の結果を通じて	松葉口玲子 環境教育／ESDの制度化に関する日韓比較	栗原清 生活科におけるESD～次期学習指導要領を見据えて～	総合討論
G 46 ESD2	村山史世 状況的学習としてのESDと地域共創	前田洋枝 原発是非判断教材の教育効果評価——論点への関心と判断の確信度、今後の行動意図の観点から——	総合討論	
G 31 震災・災害1	岩崎裕 東日本大震災以降の学生の防災意識の変化と防災教育に対する評価	後藤 忍 放射線教育用DVD教材を用いた枠決め効果に関する教育実践～DVD教材の比較による大学生の認識の分析～	河野崇 生活科・総合的な学習の時間を柱にした防災教育カリキュラムの開発	総合討論
G 23 水環境1	立花禎唯 新学習指導要領における水文化教育の可能性—水文化教育の構想と実践（その15）—	清水日香里 北海道宮島沼における小中学生を対象とした高等教育による環境学習についての実践報告	熊澤峻子 海は何故広く大きく見えるのか	総合討論
G 28 文化・生活	佐々木啓 白神山地ビジターセンターにおける文化資源情報の発信と利用	原賀いずみ 持続可能な地域づくりのデザイン～カルタ・すごろく・紙芝居を使って	寺本潔 島の栽培植物と文化財の価値に気づく観光学習の試み—沖縄県石垣市の小学4年生への出前授業を通して—	総合討論
G 29 自然1	小泉伸夫 バードウォッチャー向けリスク管理教育の実践	渋谷 晃太郎 安比高原半自然草原の再生について	倉本宣 井の頭自然文化園の動物解説員による大学生に対する外来種問題教育	総合討論

9/2(土)	10:00～	10:15～	10:30～	10:45～
G 41	榊原洋子 市民対象の石綿環境 教育講座における深 い学びの追究 -アク ティブ・ラーニング・プ ログラムの検討-	中本貴規 自然との距離を縮め るプログラムによる建 設的コミュニケーション の育成	福井智紀 科学技術社会におけ る意思決定と合意形 成を支援する学習プ ログラム 監視カメラ 設置についてのミニ 市民陪審	総合討論
G 42 ESD3	花田真理子 自治体による小学生 のための環境副読本 の現状と課題	元木理寿 地域理解のための高 大連携によるESDの 試み	大須賀匠 ESDの視点を取り入 れた環境教育を実践 する場合の宮沢賢治 の童話の役割	総合討論
G 46 ESD4	福井夏海 地域づくりの力となる 環境教育をめざして —気仙沼における新 しい図書館づくりの実 践から—	小玉敏也 動物園を活用した学 校環境教育のカリ キュラムの考察	中野智保 水族館と連携した高 校生による野生動物 保護啓発活動～みん なで守ろう! 仙台のト ウホクサンショウウオ ～	総合討論
G 31 震災・災害2	佐々木薫子 語り部ガイドによる東 日本大震災の伝承と 震災遺構の活用	石山雄貴 東日本大震災後の災 害伝承教育プログラ ムに関する研究	藤岡達也 環境教育の視点から 捉えた災害 景観の 取り扱い—地域の復 興から持続可能な発 展まで—	総合討論
G 23 水環境2	安部尚子 水辺を利用した環境 学習プログラムの実 践報告	本庄眞 川の環境学習の評 価—児童の反応レベ ルを基に—	総合討論	
G 28 歴史	飯沼慶一 生活科成立の歴史か らみた小学校低学年 環境教育	新田和宏 環境教育政策ネット ワークに関する研究	総合討論	
G 29 自然2	山口雪子 環境教育におけるユ ニバーサルデザイン についての研究 ③	丸谷聡子 兵庫県環境体験事業 の成果と課題 —環 境教育コーディネー ターの視点から—	早川礎子 保育内容 (環境)にお ける演習教材の玩具 について—手袋シア ターの事例から	総合討論

9/2(土)	11:00～	11:15～	11:30～	11:45～
G 41 プログラム 開発3	浜泰一 富士山の環境保全を 目的とした環境教育 プログラムー鳴沢小 学校における「富士 山のより良い姿」の実 践ー	石丸京子 尼崎で育てる石巻津 波復興記念公園植栽 用の郷土苗を活用し た環境学習事例	総合討論	
G 42 ESD5	飯田貴也 地域と学校の連携・ 協働によるESD実践 の可能性ー新宿の 環境学習応援団」の 取り組みを事例とし てー	豊田正明 農業を通じた地域の 学びと域学連携展開 の可能性ー商業系大 学の挑戦ー	松田 剛史 地域と学校の連携・ 協働の推進に向けた 取組 ～三笠ジオ パークESD推進協議 会の試み～	総合討論
G 46 森林1	長濱和代 森林環境教育におけ る評価の整理	神前佳毅 ブータンにおける環境 教育及びSocial Forestry Day (社会植 樹の日)に関する研究	総合討論	
G 31 震災・災害3	野口扶美子 自然災害の現場と経 験を結ぶ「気仙沼ータ スマニアプロジェクト の報告	小松淳一 温泉街における復興 過程に関する研究ー いわき湯本温泉街を 事例としてー	佐藤 太陽 津波被災地を活用し た防災教育が形成す る意識の構造	総合討論
G 23 人材養成1	三島孔明 子ども樹木博士イン ストラクターのスキル 資質に関する課題	岡山咲子 学生主体のEMSによ るアクティブラーニン グと実務教育	神村佑 大学生による地域に おける実践を通じた 環境教育人材養成ー 連携自治体の環境教 育への取組みの視点 からー	総合討論
G 28 環境意識・ 評価1	内田竜嗣 環境意識啓発マンガ 『環境教育推進課(分 室)』の作成とその評 価	桜井良 里海教育プログラ ムの評価:中学生に対 する事前・事後調査 より	大塚啓太 学校教育での環境学 習に関する学習観尺 度の作成および試行	総合討論
G 29 自然3	野田恵 環境教育における連 続・非連続性の考察	野井英明 人の自然観の変遷を 考える野外観察	河村幸子 子どものための生物 多様性学習プログラ ムの開発と実践ー地 域の身近な昆虫と ジャコウアゲハから 学ぶー	総合討論

9/2(土)	12:45~	13:00~	13:15~	13:30~
G 41 プログラム 開発4	降旗信一 地方環境研究所にお ける学社融合ESD生 涯学習カリキュラムの 開発(1)	増田直広 自然体験×プログラ ミング体験」の環境教 育実践の試み	総合討論	
G 42 SDGs	林浩二 教育ツールとしての 持続可能な開発目標 (SDGs)	二ノ宮リムさち 大学のESDとSDGs— 教育と現場をつなぐ	総合討論	
G 46 森林2	西城潔 未利用材を活用した 簡易炭焼きによる環 境学習	井上真理子 ドイツバーデン・ヴェ ルテンベルク州にお ける森林教育の現状	大石康彦 環境教育指導者養成 プログラムの構成と 内容—日本とドイツ における事例の比較—	総合討論
G 31 震災・災害4	佐藤清忠 環境パートナーシップ いわて「アイーナ夜 学」と震災復興の取り 組み	西村仁志 2014年広島豪雨災害 に学ぶ災害ボランティア 研修プログラムの 開発(3)	秦範子 豪雨災害被災地の子 どもを対象とした防災 学習の意義と課題— 茨城県常総市の取り 組みを事例に—	総合討論
G 23 人材養成2	吉田 隆真 京エコロジーセンター における環境ボラン ティアの育成	田開寛太郎 野生生物管理におけ る技術者倫理と環境 教育—ESDの一考 察—コウノトリの野生 復帰の事例を中心に	総合討論	
G 28 環境意識・ 評価2	岡山朋子 アルバイト先での食 品廃棄に対する学生 の意識に関する研究	許容瑜 児童・生徒の環境意 識と学校環境教育と の関連性	中田有哉 注意度推定のための 子供の頭部方向測定 手法の研究	総合討論
G 29 食・農1	秋吉博之 サバの解剖によるア ニサキスの観察—環 境教育の視点からの 教材開発—	田中浩之 学生援農隊による農 業振興—地域活性化 の取り組み—	総合討論	

9/3(日)	9:00~	9:15~	9:30~	9:45~
G 41 温暖化・ 気候変動、 国際1	菅野元行 女子大学環境情報系 学科における環境・エ ネルギー入門科目の 教育実践	長南幸安 カーボンニュートラル 概念獲得のための教 材開発	新堀春輔 マレーシア・イスカン ダル開発地域におけ る低炭素社会実現に 向けた環境教育 環 境保全活動の実践	総合討論
G 42 ESD6	田中純江 都市における、子ども たちの自然体験活動 報告 ～市街地に残 された身近な雑木林 を利用して～	佐藤敬一 森林ESD プログラム をアクティブラーニン グにするための協同 学習	総合討論	
G 46 公害	原子栄一郎 人間の罪と環境教育	岩松真紀 公害教育と当事者性 を考える	栗本知子 公害を題材とした参 加型教材開発	総合討論
G 31				
G 23 教育理論1	坂本明日香 幼児教育・非認知ス キル開発プログラ ムの研究 ② 「ペリー就 学前教育に着目して」	小野瀬剛志 批判的環境教育にお ける社会構造の問題 — 環境のための教 育」(エコ社会主義)と 自由主義の論争から —	総合討論	
G 28 環境意識・ 評価3	岩崎慎平 福岡県地球温暖化防 止活動推進員による 環境教育活動の実績 および今後の課題	中島清隆 バリ島の大学での環 境活動と小学校での 環境教育—日本とイ ンドネシアの大学生 の協働と日本のNPO の支援	総合討論	
G 29 体験学習1	山形泉 自然体験プログラム 受講による意識変容 —その質的側面に着 目する	櫃本真美代 大学生の自然体験に ついての考察	栞原智美 学校教育における体 験的総合学習の考察 ～学習観尺度を用い た授業実践評価～	総合討論

9/3(日)	10:00～	10:15～	10:30～	10:45～
G 41 国際2	佐藤秀樹 Bangladesh・シュ ンドルボンにおける自 然共生型地域づくり の実践報告	高書金 中国山東省済南市で 公害対策に取り組む 環境団体の取り組み	総合討論	
G 42 ESD7	萩原豪 群馬県下仁田町の地 域資源を活用した東 日本大震災被災地支 援活動	寺木秀一 環境カウンセラーが 進める学校・地域の 環境教育～環境カウ ンセラーESD学会の 設立に向けて	丸谷聡美 ため池コウノトリプロ ジェクトによる地域資 源の掘り起こしとESD の可能性	総合討論
G 46 ESD8	中西一成 アユの目から見た環 境教育プログラムの 深化	布施達治 理科野外授業におけ る学びの構成の探 求―生徒の視点から のカリキュラム把握を 目指して―	総合討論	
G 31				
G 23 教育理論2	大島順子 持続可能な観光のた めの環境教育	小栗有子 暮らしに埋め込まれ た人と自然の関わり から「環境教育」を紡 ぐ	須田玲子 未来創成教育の実践 と展望	総合討論
G 28				
G 29 体験学習2	遠藤秀平 短期宿泊型野外体験 が小学校児童の環境 意識に及ぼす効果	小柳知代 印象に残る自然体験 とは？ 学校内外での 自然体験の種類と関 係性	落合由紀子 牧場体験学習の現状 と課題	総合討論

9/3(日)	11:00~	11:15~	11:30~	11:45~
G 41 国際3	松岡宏明 協働による自然保護 と観光の両立 ハワイ ハナウマベイの取 り組みから	樊露 中国雲台山ジオパー クにおける環境教育 の展開と課題—日本 との比較を中心に—	総合討論	
G 42 ESD9	森朋子 地域の将来を考える 中高生向けワーク ショップが参加者に与 える影響～参加者へ のアンケート調査から ～	中口毅博 高校における総合学 習 ESDの効果の定 量的分析—3つの高 校の比較から—	小堂十 ユネスコスクール NISHITAのホールス クールアプローチ1年 間のあゆみ	総合討論
G 46 ESD10	岩本泰 倫理的 (エシカル) 消 費を鍵概念としたESD の検討	海老原誠治 Circular Economy・ SDGsに対する食育の 検討 器 環境・文化・ 遊びを通じ)	渡部裕司 教科書を批判的に読 みとく(社会科授業 :ア メリカ合衆国の農業 を例として	総合討論
G 31				
G 23 教育理論3	若林身歌 ドイツにおける学校環 境教育をめぐる議論 の諸相	渡辺理和 諸外国における環境 教育関連法制に係る 基本問題—環境倫理 の視座から	森谷昭一 農林業講座のための 技能伝達表と知識単 位	総合討論
G 29 体験学習3、 地域1	菊池 稔 地域に根ざした教育 としての「森のようち えん」の可能性と課題	飯尾美行 学校外の学修によ る単位認定と環境ボ ランティア活動 -工 業高校における環境 教育リーダーの育成 -」	笹川貴吏子 地域づくりにおける住 民と外部者間の学び に関する考察—茨城 県常陸太田市を事例 として—	総合討論

9/3(日)	13:00~	13:15~	13:30~	13:45~
G 41				
G 42 ESD11 食・農2	溝田浩二 なぜ「産直」が環境教育の新規フィールドとして注目されるのか？	小関一也 産地直売所をフィールドとする環境教育プログラムの開発とアクティブ・ラーニングの可能性	総合討論	
G 46				
G 31				
G 23 教育施設	河野祐弥 福島第一原発事故の教訓を伝える施設の展示内容と教育効果に関する研究	周盈 植物園における視覚障がい者向けのプログラムの改善に関する研究	総合討論	
G 28				
G 29 地域2	椿剛史 地域環境学習における学校外との関わり方の検討～中等教育における実践を通して～	小堀武信 都市と農山村交流の一考察～山村留学を事例として～	高橋正弘 ツシマヤマネコ交通事故対策に係る環境教育の課題	総合討論

ポスター発表 (☆は高校生の発表です)

<G21 教室>

- P01 ○井上 明日翔・岩本 泰・室田 憲一・仙田 考：幼稚園の園庭における主体的な「自然ふれあい」の場へのかかわりを考える
- P02 ○梶浦 恭子：乳幼児が自然物とかかわる意味を探る
- P03 ○中谷 康弘・久米 智：モンシロチョウの飼育教材を利用した岩手県内小学校への震災復興学習支援について
- P04 ○寺本 洋次郎・小林 溪太・小野田 弘士・塩田 真吾・和田 翔太：環境教育におけるコミュニケーションロボットを活用した教育方法の検討ー権威別による教育効果の比較ー
- P05 ○田中 住幸：小学校向けの「水生生物観察会」プログラムの開発と実践
- P06 ○門田 奈々・飯島 明宏：ビオトープを活用した自然体験型環境教育プログラムの提案
- P07 ○細田 直人：茨城県霞ヶ浦環境科学センターを利用した児童の意識の変化について
- P08 ○牧口 未和・伊藤 貴則・高橋 一秋：全国植樹祭ながの 2016 で植えた樹木を学ぶ環境教育プログラムの開発と実践：短期・中期・長期記憶の分析
- P09☆○保坂 百美（山梨英和中学校・高等学校）・小口 友理・蔵海 咲・青柳 華花・小宮山 遼・中村 愛・盧 賀恩：「外来生物に関する意識を広める研究」ー富士山麓および山梨県における外来植物についてー
- P10 ○小林 溪太・寺本 洋次郎・塩田 真吾・小野田 弘士：360 度カメラを用いた環境教育の評価手法の開発ー低学年向けのパフォーマンス評価を目的としてー
- P11 ○村松 陸雄：YOU は何しに日本環境教育学会へ？ー我々はどこから来たのか我々は何者か我々はどこへ行くのか
- P12 ○石塚 杏奈・室田 憲一・石原 圭子：持続可能な農業に向けた食品廃棄物利用の可能性について
- P13 ○齊藤 由倫・田子 博・佐野 和美・飯島 明宏：全国の地方環境研究所が行う環境教育の特色と教育的意義
- P14 ○邱 天・三島 孔明：幼稚園教諭・保育士の自然体験の指導力を高める教材の開発に関する研究
- P15 Su Hwa Lin・○Ching-Feng Chen: Corporate Environmental Education Facilities and Fields through Corporate Social Responsibility Case-External responsibility
- P16 ○Lin, Ming-Ray・Chiang, Pei-yun: The Effectiveness Evaluation of Central Environmental Education Regional Center in Taiwan

<G22 教室>

- P17☆○柳沼 優（仙台城南高校）・中鉢 渉・久保 達也：野生トウホクサンショウウオの繁殖に関する研究
- P18☆○上遠野 望羽（仙台城南高校）・佐々木 朋華：知ることは守ること！みんなで守ろう仙台のトウホクサンショウウオ活動報告
- P19☆○大久保 誠也（獨協中学校高等学校）・種田 悠社・中田 幸多・野々村 美徹・吉田 和貴：地域社会と繋がる屋上空間の作物園、箱ビオトープの実践
- P20 ○小笠原 潤・杉尾 幸司：環境教育を通して国際理解と防災・復興について学ぶ？ ～生態系サービスを活用した防災・減災～
- P21☆○木幡 美卯（福島県立相馬農業高等学校）・太田 睦実・鈴木 ふみか・鎌田 桃果・寺島 香菜・横山 珠李・藤原 忍・齋藤 勇樹：津波被災地における固有植物の活用と普及～相馬農業高校によるハマナスを活用した交流活動・環境学習の実践～
- P22 ○田子 博・齊藤 由倫・町田 仁・大塚 佳臣・山崎 宏史・中村 卓雄・植栗 慧：専門家による高度な環境教育支援が高校生の環境意識にもたらす影響評価 (1)
- P23 中西 一成・○佐藤 裕司：アユの目から見た環境教育プログラム
- P24 ○田中 卓也：大学と教育委員会との連携を通じた里山自然体験活動第3報

<G22 教室>

- P 25 ○松重 摩耶・上月 康則・西上 広貴・山中 亮一：宇宙時代に「自然体験学習」は必要か？ -工学系大学院生の意見より-
- P 26 ○梅田 真樹：日本のタバコに含まれるカドミウム
- P 27 ○高橋 一秋・高橋 香織：「大学生と小学生が学び合う学習プロセス」の設計・実践・評価：海岸林再生を目指す「たねぷろじえくと」
- P 28 ○斉藤 千映美・表 潤一：動物の「飼育」と「観察」では、どちらが生命理解に適しているでしょうか？
- P 29 ○小川 博士・中島 結・大村 充：ごみ問題に関する学習が女子大学生の意識に与える効果 - 左京エコまちステーションによる出張授業を通して -
- P 30 ○西川 祥子・松田 聡・森家 章雄：「伊川リバーフェスタ」に参画するコミュニティーその属性と環境教育意識について -
- P 31 ○田中 真由紀：香川県豊島における地域振興方策の現状と課題
- P 32 ○三ツ井 聡美：野生動物を見る、見せる - 体験がもたらす観光客の意識変化
- P 33 ○岩西 哲・高田 兼太：自然史系博物館利用者の昆虫に対する好悪感情
- P 34 ○山崎 啓・徳武 浩司・岡 慎一郎・宮本 圭：国営公園内の自然環境を利用した参加体験型環境学習の実施事例
- P 35 ○川嶋 直：SDGs と ESD の関係を KP 法で考えてみた
- P 36 ○高橋 正昭、武本 行正、大八木 麻希、榊枝 正史、伊藤 二郎、下村 直樹：海蔵川の環境汚染に係る協働活動
- P 37 ○小河原 孝生：生物多様性保全のための市民参加型生きもの調査 2016
- P 38 ○安川 祐樹：環境分野における非営利組織の総合評価の必要性
- P 39 ○伊藤 剛太：鉄道における環境負荷低減に関する研究
- P 40 ○表 潤一・齋藤 千映美・橋本 勝：宮城県海棲哺乳類の事例から考えるレッドデータブックの意義と課題
- P 41 ○小山 亜由夢：分散型エネルギー導入による地域活性化の研究
- P 42 ○坂井 宏光：里山・ビオトープのトキとコウノトリの野生復帰と環境教育

【若手会員の集い】「若手が考える 20 年後の環境教育」プロジェクト第 3 弾

—イマジネーションアップ・ワークショップ—

主催：若手組織化検討ワーキンググループ

日時：2017 年 9 月 1 日（金）16：00～18：00

会場：岩手県立大学アイーナキャンパス（アイーナ 7 階）学習室 1

対象者：今後何らかの形で環境教育に携わっていきたいと考えている若手（39 歳以下）です。特に、実践と研究のより良い関係を築くことに興味がおありの方は是非、ご参加ください。

プログラム：

開催挨拶・趣旨説明・昨年度のワークショップの概要（大塚啓太） 5 分

話題提供 「環境教育を実践する立場から若手会員に望むこと」（提供者は調整中。

実践する立場から話題提供してもらおう予定です。） 15 分

意見交換 「私がやりたいこと、若手活性化と実践をつなぐこと—私は何をするか—」

（数名のグループに分かれてのフリートーク） 60 分（30 分×2 セット）

意見表明 「私はまず、何をするか？」 30 分

（問い合わせ先：大塚啓太：idling.stop.bus03t@gmail.com）

環境教育学会誌へ論文投稿をめざす方のための

論文の書き方セミナー

日本環境教育学会編集委員会では、当学会誌への論文投稿をめざす方々を対象に、今年も年次大会にあわせて「論文の書き方セミナー」を開催します。今回も、大学院生や若手研究者等の会員による「若手組織化検討ワーキンググループ」より、当学会誌に掲載された論文著者等のなかから「ぜひこの方の話を聞きたい！」と挙げられた方々に、話題提供をお願いしました。また冒頭には、編集委員長より編集方針や最近の投稿傾向等について説明します。話題提供者との質疑応答のほか、自由な質問・意見交換の時間も設けます。

若手会員のみならず、当学会誌への投稿を考える幅広い方々のご参加をお待ちします。

日時：2017年9月1日（金）18時～20時

場所：岩手県立大学アイーナキャンパス（アイーナ7階） 学習室1

<話題提供>

- 藤岡達也氏（日本環境教育学会編集委員長・滋賀大学）
「『環境教育』の編集方針について」
- 布施達治氏（千葉県立松戸向陽高等学校）
「学校からの私のESD報告の方法
—問いの設定から実践と検討そして論文作成まで」
- 野村康氏（名古屋大学）
「社会科学の方法論と環境教育研究
—ジャーナルの動向を踏まえて」
- 桜井良氏（立命館大学）
「どうすれば論文をたくさん書けるのか？」

主催：日本環境教育学会編集委員会・
若手組織化検討ワーキンググループ

問い合わせ：日本環境教育学会編集委員会 セミナー世話人
二ノ宮リム さち（東海大学）

電話：0463-58-1211（内線2856） Email：sachinl@tokai.ac.



英語報告会 English Session

Date: September 2, 2017 Time: 10:00-11:50 Language: English

Venue: Room G19, Buld. Center A (A棟 G19 教室), Iwate University

タイトル	キーワード	氏名	所属
Hunter Education as a Function of Education for Sustainable Development	Resource sustainability, conservation, education	*David Allen, Kantaro Tabiraki	Texas A&M International University
Developing the inner value of corporate social responsibility for environmental education facilities and venues	Environmental Education Facilities and Venues ,Corporate Social Responsibility , inner value	Lin,Su-Hwa , * Lee,Hsin-Lin	Department of Science Education and Application, Master Program of Environmental Education and Management. National Taichung University of Education ,Taiwan
Photography for encouraging pro-environmental behavior: A study based on interview to university students	class activity, extrinsic and intrinsic motivation, qualitative and quantitative study, participatory research	ZHONG ANGGU	College of Policy Science, Ritsumeikan University

**INTERNATIONAL DISCUSSION MEETING FOR
A SPECIAL ISSUE OF
JAPANESE JOURNAL OF ENVIRONMENTAL EDUCATION:
ENVIRONMENTAL EDUCATION IN ASIA (JEE-EEA2019)**

Date: September 3, 2017 Time: 9:00-11:55, 13:00-13:45 Language: English

Venue: Room G19, Buld. Center A (A棟 G19 教室), Iwate University

Come join our meeting to share ideas, practices, and theories of environmental education in the Asian region.

Japanese Society for Environmental Education (JSFEE) published a special issue of *Japanese Journal of Environmental Education* in July 2017 as its first international collaborative effort with the partner associations of Taiwan, Korea, North America, and Australia. For this online English issue, editors and contributors were invited from all these associations for the development of discussion on EE in Asia. Some of the aims of this project were to share the situations of formal and non-formal EE and trends of EE research in three Asian countries, and to gain insights from outside of the region. This first step led to further international collaborative research, for example, to find similarities and diversities among EE in Asia, or to identify possible contributions Asia can offer to the global EE network.

To pursue the original objectives of this project, JSFEE started the International Collaborative Research Project in April, 2017. In this meeting, seven members(teams) of the project present their research plan as well as contents of the academic papers that they are planning to submit to the next issue of Japanese Journal of Environmental Education in Asia (JEE-EEA) which is scheduled to be published in June, 2019.

Coordinators/ Chief-editors: Shinichi FURIHATA, Ryo SAKURAI	
Possibilities on International Collaborative Research Initiative for E.E. in Asia (2): Designing Survey and Questionnaire	Kimiharu TO, T.C. CHANG, Chankook KIM, Sun-kyung LEE, Ryo SAKURAI, Sachi NINOMIYA-LIM, Noriko HATA, Junko KATAYAMA, Shinichi FURIHATA
Environmental Education Using the Oriental White Stork in Japan and the Republic of Korea	Kantaro TABIRAKI, Young Sook NAM
Comparative Study of EE/ESD in Higher Education in Asia: A Proposal	Sachi NINOMIYA-LIM
Comparative Study on the Environmental Education Promotion Act in East Asia	Masahiro SAITO, Hideki SATO, T.C. CHANG.
Comparative Study of National Park as one of Environmental Education Institutions	Yuki ISHIYAMA, Yi-Hsuan Tim HSU
Comparison of Forest Education in the Compulsory Schools of Asia from a Global Perspective	Kazuyo NAGAHAMA, Akira HIYANE, Kiyotatsu YAMAMOTO, Hem GAIROLA, Laxman SATYA
Reconsidering Paulo Freire's Pedagogic Theory on Environmental Education in Japan	Yusuke SAKAI

A Special Project, The 28th Annual Meeting of
The Japanese Society for Environmental Education

日本環境教育学会 第28回大会 特別企画

International Luncheon Meeting

 国際交流ランチ会 

Let's talk ! Chatting with participants from various
places, over lunch & drinks

ランチしながら、いろいろな地域からの参加者と
おしゃべりしましょう！

Date: September 2, 2017 (Saturday)

TIME: 12:00 – 13:00

日時: 2017年9月2日(土)12~13時

Venue: Room G19, Iwate University

場所: 岩手大学 学生センターA棟G19講義室



Sandwich

Please bring your own lunch.
ランチをご持参ください。

Please bring your own cup so that you can reduce waste, while paper
cups are available.

お茶はこちらで準備します。紙コップを用意しますが、
マイカップがある方はご持参ください。



Language: English and Japanese Chinese, Korean, Spanish, and
Portuguese interpretation also available.

中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語の通訳も対応できます。



簡単な通訳ができる国際交流委員がいます。
英語が話せなくても、気軽にご参加ください。